

那珂川町図書館

オススメの1冊

『天気の名前』

森田 正光／監修 世界文化社【451 冊】

日本には、1年を通して春・夏・秋・冬が巡ってきます。

春は、段々と暖かくなり気持ちがソワソワしてくる新年度（新学期）やお花見の季節。夏は、蝉がミンミンと鳴き出し蒸し暑くなり花火大会や海水浴が楽しめる季節。秋は、紅葉が深まり、食欲も増す季節。冬は、寒く雪が降る日もありますが空気が澄みわたり星空が綺麗に見える季節。その人、その人によって四季の感じ方も思い出も違うと思いますが、季節それぞれに素晴らしい気候や風景を見ることができます。

皆さんは春を何故“はる”というのかおわかりでしょうか。私は、何の疑問もいただいたことはありませんでしたが監修の森田氏は次のように書かれています。<木の芽や蕾がふくらむ「ふわる=h wa（膨らむ）+ru（状態）」を指していたり、芽が「はる（張る）」様子を指しているなど、諸説こもごもです。>諸説ではありますが、なるほどなあと思いました。

先日まで聴こえていたスズムシやキリギリスなど季節の終わりに鳴く虫の音も聴こえなくなり、すっかりと秋も深まりだんだんと寒さも増してくる冬の季節になってきました。

私は、四季を通して春・夏・秋が好きですが寒いのが嫌なのでちょっぴり冬が苦手です。皆さんは、どの季節が一番好きでしょうか。

本書は、第1章は「季節の言葉 春」花冷えや霞について。第2章は「季節の言葉 梅雨」狐の嫁入りや麦秋について。第3章は「季節の言葉 夏」雲の峰や油照りにについて。第4章は「季節の言葉 秋」罌雲や露時雨について。第5章は「季節の言葉 冬」木枯らしや暮雪についてそれぞれの季節を切り取った言葉や写真、またイラスト付きで天気の名前とその意味が紹介されています。

さて、那珂川町図書館主催の秋の図書館まつり“図書館においでよ 22”の一環で行う講演会（11月19日 日曜日）に現在、夕方のNHK福岡ニュース【ロクいち！】の気象キャスターとして気象情報番組をご担当されています吉竹 顕彰（よしたけ あきら）さんをお招きし、気象や季節の言葉、気象キャスターとしてのお仕事の紹介やご自身の読書についてお話をさせていただきます。この機会に、お天気について学んでみませんか。

※詳しくは、館内チラシ・ホームページ等をご確認下さい。

那珂川町図書館(紅娘)